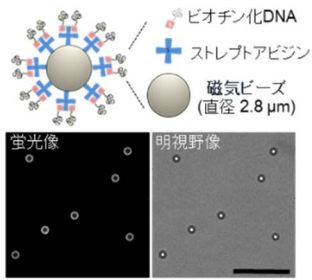
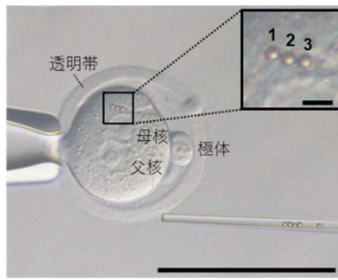


DNAビーズの模式図と写真



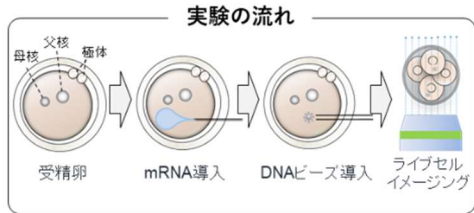
受精卵の細胞質内へ導入したDNAビーズ



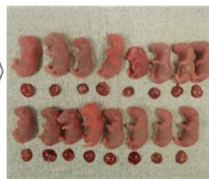
左上：DNAビーズの模式図およびDNAビーズをヘキスト染色した蛍光像（白:DNA）と明視野像。スケールバー = 25 μm 。

右上：マイクロインジェクション法により受精卵の細胞質内へ導入されたDNAビーズの写真。スケールバー = 100 μm ; 5 μm (拡大: 右上)。

左下：実験の流れ。受精卵の細胞質内に蛍光タンパク質をコードするmRNAを導入した。続いて細胞質内にDNAビーズを導入し、経時的に観察を行った。



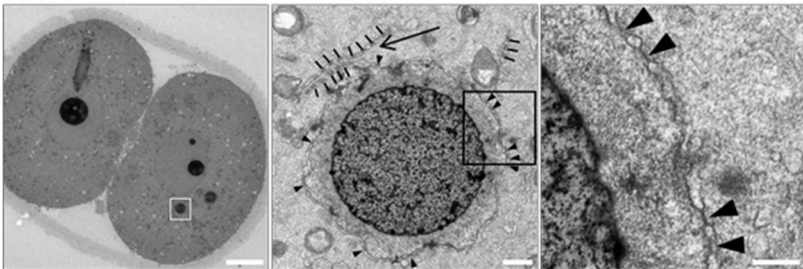
産仔獲得



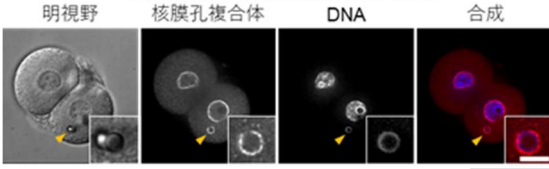
右下：DNAビーズを導入した受精卵を仮親に移植して得られた産仔の写真。

DNAビーズを導入した2細胞期胚の電子顕微鏡画像

2細胞期胚の全体像 白枠の拡大写真 (DNAビーズ) 黒枠の拡大写真 (核膜様構造)



2細胞期胚の免疫蛍光染色画像



上図：DNAビーズを導入した2細胞期胚の電子顕微鏡画像を示す。左は2細胞期胚の全体像。真ん中は白枠 (DNAビーズ) の拡大写真。ビーズ周囲には2重の膜様構造が見られ、矢頭は膜孔様構造、矢印は層状の膜構造がビーズに陥入している様子を示す。右は黒枠の拡大写真 (膜様構造と膜孔様構造の拡大写真)。スケールバー (左から順に) = 10 μm , 0.5 μm , 0.2 μm 。

下図：核膜孔複合体の抗体を用いて免疫染色をした2細胞期胚の蛍光画像。矢頭はDNAビーズを示す。スケールバー = 50 μm , 5 μm (拡大: 挿入図)。